

大学生を対象にした子どもの事故防止の理解を深めるための ポスターと標語づくり

入江 和夫・山野 京子^{*1}・入江三津子^{*2}・福地 昭輝^{*2}

Making Posters and Messages for College Students' Better Understanding
of Child Accident Prevention

IRIE Kazuo, YAMANO Kyouko^{*1}, IRIE Mitsuko^{*2}, FUKUCHI Akiteru^{*2}

(Received August 6, 2014)

キーワード：幼稚園教諭、保育士、子どもの事故防止、大学生、家庭科

はじめに

子どもの事故が後を絶たない。NHK (2012) によれば、保育所で子どもが死亡した事故例は18件あり、内訳は0歳～1歳の乳児が多く、昼寝をしている時に異常が見つかったり、おやつをのどに詰まらせたりする窒息が目立つと報道されている。幼稚園でも箱型ブランコの下敷きになって4歳園児が死亡(読売新聞2001)、2011年には水深21cmの幼稚園プールで溺死などの事故死の事例(読売新聞2013)が報道されている。国民生活センター(1999)によれば、「0～4歳の家庭内事故死の数は交通事故死より多く、家庭内事故を減少させることは、国民の安全の向上に寄与することにつながる」と述べている。子どもの事故は家庭内ばかりでなく、その6%程度が学校や公園の遊具によるけがである(京都府HP)。

厚生労働省「健やか親子21」では「乳幼児が家庭の風呂場で溺死する事故や児童生徒の交通事故による死亡も多く発生しており、家庭と学校、地域が一体となって小児期の事故防止対策を進める必要がある。」とし、東京都福祉保健局では乳幼児の事故防止対策を指導する人のために「乳幼児の事故防止教育ハンドブック」を作成している。このように、子どもと関わる全ての人たちが事故防止に関心が高めるような学習があれば、効果的な対策となる。

保育士・幼稚園教師にとって、また、中学校・高等学校の家庭科では「幼児との触れ合い」のために生徒が保育園・幼稚園訪問で子どもと一緒に遊ぶことから、それを指導する教師にとって子どもを事故から守ることは非常に重要である。

そこで、保育士及びこれら教師を目指す学生を対象に、子どもの事故防止の理解を深めるために、ポスター及び標語づくりを行ったので、それらの結果を紹介するとともに、このことを通して、学生の「わかったこと及び感想」から、教材の有用性について述べていく。

1. 方法

1-1 ポスターづくり：2014年6月～7月、国立y大学教育学部の家庭科教育学2の受講者(10名)及びt女子短期大学「保育内容研究」の受講者(58名：2名1組)を対象に、国立保健医療科学院「子どもに安全をプレゼント 事故防止支援サイト」を参考資料として、事故例をランダムに学生に渡し、ポスター及び「わかったこと及び感想」を後日、回収した。

1-2 標語づくり：2014年7月、1-1のポスター12枚を提示して国立y大学教育学部学生を対象に行い、「わかったこと及び感想」と一緒に後日、回収した。

*1 山口県立青嶺高等学校 *2 鶴川女子短期大学

2. 結果と考察

2-1 ポスター及び標語づくり

大学生が描いたポスター（1～12）と標語を以下に示し、それを考察した。

ポスター1 外傷

刃物はきちんと片付けよう



標語

- 1 日用品 一足先は 大事故に
- 2 片づけた 危険な刃物 直してね
- 3 おいてない? おもちゃにするよ 包丁を
- 4 好奇心 子どもにとっては 危険かも
- 5 危険物 危ないものは 片づけよう
- 6 置いたまま うっかり刃物 大事故に
- 7 防げるよ 子どもの大けが 片づけで
- 8 危険物 手の届くところに 置きません
- 9 あっ危ない 刃物はもとに もどそうね

ポスター2 転落

ちよつと走りはじめたら (1/1)
タンスなどの引き出しを、開けたまにしない。



標語

- 1 危険です 子供が タンスの下敷きに
- 2 登るなよ 世界一危険 階段を
- 3 引き出しに 潜む危険は 数知れず
- 4 たおれるぞ あけっぱなしの ひきだしが
- 5 登れるものは 登っちゃう
- 6 まあいいか 開けっ放しが 事故のもと
- 7 登れるな 子どもの目線で 考えて
- 8 好奇心 よじ登るかもよ その階段
- 9 のぼってる 引き出ししめて 安全に
- 10 察知して! 空いた引き出し 危険だと

ポスター3 溺水

ハイハイをはじめたら (5/5)
風呂場に赤ちゃんを1人にさせない!!



標語

- 1 シャンプーや リンス、石鹸 劇薬に
- 2 残さない 余ったお湯と 赤ちゃんを
- 3 風呂に一人 滑る溺れる 何起こる?
- 4 風呂場には 水の悪魔が 潜んでる
- 5 一人だと 何が起こるか わからない
- 6 洗面器 そこにある水 潜む危険
- 7 その油断 子どもの命 奪うかも
- 8 お風呂場は 危険がたくさん 潜んでる
- 9 ちょっとだけ お風呂で一人 大事故に

ポスター4 交通事故

歩きはじめたら②

子どもから目を離さないで!!



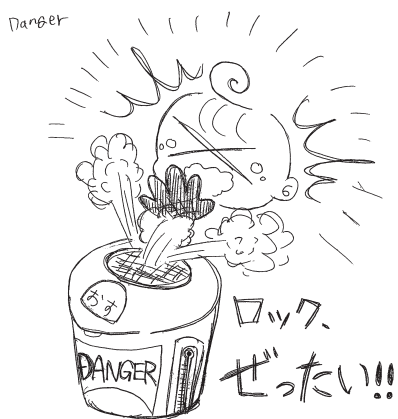
標語

- 1 おしゃべりと どっちが大事? 子供の命
- 2 どこにいる 幼児を見てね その姿
- 3 話しても 目は離さないで 子どもから
- 4 交通事故 回避できるかは あなた次第
- 5 目を離す そのいっしゅんが 危険なの
- 6 うちの子は? 気づいたときには もう遅い
- 7 気の緩み 気づいた時には もう遅い
- 8 追いかけた ボールの先に 待つ惨事
- 9 目を離すのは一瞬、後悔は一生
- 10 一瞬の隙が 子どもの 命取り
- 11 一瞬の その気のゆるみが 大事故に
- 12 目を離す その心のすき 事故のもと

ポスター5 やけど

ハイハイをはじめたら③

ポットにロックをかけよう!

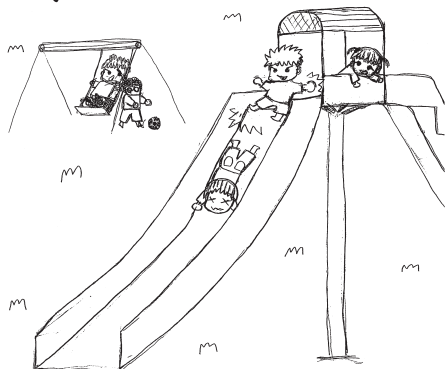


標語

- 1 熱湯を わが子に触らせたいですか?
- 2 やけどする ロックしたかな 熱いお湯
- 3 鍵かけて! 火傷してからじゃ もう遅い
- 4 ポットから 熱湯でない? ロックした?
- 5 親助く 家電製品 子を襲う
- 6 ロックする きちんとチェック 忘れずに
- 7 おおやけど ポットのロック 忘れずに
- 8 見えてない ポットの中身 危険だと
- 9 大やけど 少しの注意で 防げるよ
- 10 あっ危ない ポットにロックで 安心ね

ポスター6 転落

まもろう!
ルールとともにだち



標語

- 1 約束だ 正しい乗り方 順番を
- 2 友達と ルールを守って 仲良くね
- 3 守ろうよ みんなを守る きまりごと
- 4 育てよう 小さな種から 大きな絆
- 5 守ろうね ルールと友達 大切に
- 6 友達と ルール守って みなハッピー
- 7 友達と ルールを守って 一人前
- 8 順番を 守ってあそぼう 安全に
- 9 守るのは ルールとともにだち お約束

ポスター7 転落

ちょっと待って!
そこに置いて大丈夫?

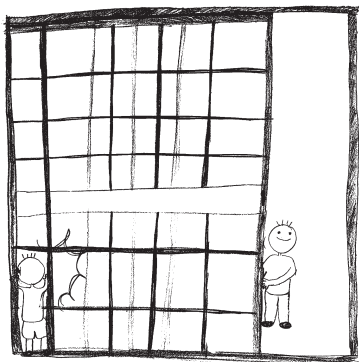


標語

- 1 その荷物 子供の転倒 援助する
- 2 その荷物 子供の身長 高くする
- 3 危険だよ 登れるものは ないかな
- 4 考えて!そこに置いたら どうなるか
- 5 それまった そこにおいても 大丈夫?
- 6 子どもには 小さな段差も 大きな舞台
- 7 登れそう そこにおいても 大丈夫?
- 8 ひと呼吸 子どもの目線で 考えよう
- 9 危険かも そこに置いても 大丈夫?
- 10 本当に? そこに置いたら 危険でしょ

ポスター8 外傷

子どもの高さ気をつけて



標語

- 1 気づこうよ あなた目線と 子供目線
- 2 意識しよう 子供の目線 その低さ
- 3 子どもには どうにもできない その高さ
- 4 大人には 小さな僕たち 見えないの?
- 5 けが防止 子供目線で 考えよう
- 6 気を付けて! 意外と見えない 子どもの姿
- 7 気をつけよう 意外と見えない その高さ
- 8 ちょっと待て 子どもの目線で 考えよう
- 9 子どもの目線 少しの気遣い 安全に

ポスター9 誤飲

物がつかめるようになったら ㊟

わたしとおもちゃと
ときどき キケン!



標語

- 1 おもちゃたち 楽しい反面 危険あり
- 2 楽しいな 時々危険 そのおもちゃ
- 3 口の中 入れてからじゃ もう遅い
- 4 子どもには おもちゃの危なさ わからない
- 5 そのおもちゃ 口に入れても 大丈夫?
- 6 気を付けて 楽しいおもちゃも 鬼になる
- 7 なんだって 口に入れたい 気を付けて
- 8 隠れてる… 楽しいはずの おもちゃにも
- 9 変えないで 好きなおもちゃを 大事故に
- 10 使ったら 元の場所に 戻そうよ
- 11 気づいてね 楽しいおもちゃの 危険な面
- 12 あっ食べた 飲み込む前に お片付け

ポスター10 誤飲、やけど

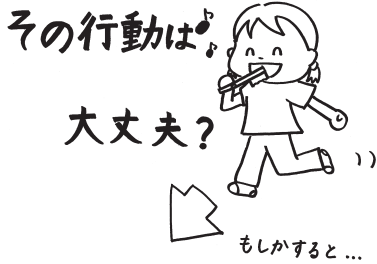


標語

- 1 うっかりが 子供巻き込む 大事故に
- 2 子どもの手 その手はどこへ 大事故に
- 3 子どもには すべてのものが 未知の世界
- 4 気をつけろ 手が届くもの 危険だぞ
- 5 小さな火 子どもが使うと 大火事に
- 6 子供の手 届くところに 要注意
- 7 届いたぞ 喜ばないぞ 起こる事故
- 8 大事故は 大人の油断が 招くもの
- 9 火の管理 しっかり大人が 気をつけよう
- 10 これなあに 手が届く場所に 危険あり

ポスター11 外傷

危険かも



標語

- 1 大丈夫? もしかしたらを 考えよう
- 2 その不注意 災いのもと 気を付けて
- 3 気を付けて 事故はどこでも 起こり得る
- 4 くわえてる 転んだときは どうなるの?
- 5 ちょっと待て その行動は あんぜんかい?
- 6 危険だよ 歯磨きするとき 動かずに
- 7 大丈夫? 予期して危険! その行動
- 8 予測して 守ってあげよう 子どもたち
- 9 危険かな そう思ったら すぐ防止



ポスター12 窒息



標語

- 1 何気なく おいてるものが 命取り
- 2 子どもの 助かる命 ひと手間を
- 3 一手間で 助かる命 助けよう
- 4 ビニールで 窒息するよ 片づけよう
- 5 あなたなら 命と怠慢 どっちとる?
- 6 すぐやろう 子供の安全 守るため
- 7 その命(いのち) 守る近道 そのひと手間
- 8 ありえない そんな油断が 大事故に
- 9 子どもには どんなものでも 命とり

ポスター1「外傷」は刃物による子どもの事故を描いている。消費者庁a「カミソリなどの刃物による切傷」では「赤ちゃんは大人が使うものに興味を持ち、まねをして自分でも使おうとします。このため、まな板の上に置いた包丁を取ろうとして、足の上に落としたり、洗面台のカミソリを握ってしまったりするので、注意が必要です。」とある。台所には刃物があり、火を使うことから家の中で危険な場所であることを、十分認識させる必要がある。ポスターは子どもが親の炊事に興味をもって、包丁を触っている場面のように感じられる。標語3「おいてない？ おもちゃにするよ 包丁を」、標語4「好奇心 子どもにとっては 危険かも」は事故が生じてしまうきっかけが表現してあって、とても納得できる。

ポスター2「転落」では子どもがタンスによじ登り、その上にある物が落下しそうな状態を表すとともに、タンスも倒れてしまいそうな様子を表現している。このような事例を探すと館林市HP「子どもの危険！子どもの目線で事故予防」があった。そこには「よじ登ってタンスが倒れてしまったりすることがあります。」の注意を促している。標語1「危険です 子供が タンスの下敷きに」は事故の結果をわかりやすく表現している。標語5「登れるものは 登っちゃう」は子どもの好奇心と活発な運動を上手に表し、タンス以外のものも登れるよ！と注意する表現になっている。

ポスター3「溺水」は風呂場での事故である。東京消防庁a「子どもの風呂場での溺水事故に気を付けて！」では、平成18年～平成20年の3年間に、浴槽で溺れた10歳未満の子どもは92人で医療機関に搬送されている。ポスターは水が満たされた洗面器をもっている子どもであるが、何らかの拍子で、立ち上がれず顔をそこに入れてしまえば、溺れてしまう。標語3「風呂に一人 滑る溺れる 何起こる？」、標語8「お風呂場は 危険がたくさん 潜んでる」などは風呂場が死につながる危険な場所として表現している。

ポスター4「交通事故」は子どもの飛び出し事故である。ホンダHP「子どもの危険予測」によれば「道路の向こう側に友だちがいる時、遊びに夢中になっている時などに飛び出してしまう交通事故が実際に起きています。飛び出しで交通事故にあっている割合は6歳以下の幼児では56.9%、7～12歳の小学生では51.3%とあり、事故が多いことがわかる。標語1「おしゃべりと どっちが大事 子どもの命」、標語9「目を離すのは一瞬、後悔は一生」は保護者の責任の重大さを伝えている。

ポスター5「やけど」はポットによるやけどである。消費者庁b「ポットや炊飯器によるやけど」では「ポットや炊飯器は手の届かないところに置き、コードは引っ張られないよう巻き取っておきましょう。また、ポットにはロックをかけてお湯が出ないようにしましょう。」とあり、注意と対策を呼びかけている。標語5「親助く 家電製品 子を襲う」は確かに、家電製品による家事負担の軽減は親を助けるがそれと引き替えに子どもには危険というメッセージであり、警告している。標語8「見えてない ポットの中身 危険だと」では子どもにとってポットに熱いお湯が入っていることがわからないということを示している。沸騰中に出る蒸気は高温で危険であるし、沸騰中でなくても、ポットが倒れればお湯がこぼれ危険である。

ポスター6「転落」はすべり台での事故であり、すべり台は幼稚園など公園にもある。東京消防庁b「遊具にかかわる事故」の場所別の事故発生状況を見ると、すべり台が991人と最も多く、次いで、ぶらんこ、うんてい、ジャングルジム、鉄棒と続いている。標語1「約束だ 正しい乗り方 順番を」、標語8「順番を守ってあそぼう 安全に」がこの事故を防ぐ内容を示しているとともに、子どもに伝えることが必要である。

ポスター7「転落」はこれを見ただけで“危ない！転落しちゃう”が伝わる。消費者庁c「窓、バルコニーからの転落」では「窓の近くにソファを置いたり、バルコニーに植木鉢や新聞紙の束を置いたりするなど、踏み台になるものを置かないようにしましょう。」とある。ポスターは子どもがバルコニーに置かれている台に登り、脇にはゴミ袋がある。台に登って階下を覗けば、子どもは頭が大きいので転落しかねない。さらに、ゴミ袋を台に上げて登ってしまえば、落下の危険は一層大きくなる。遠方にはそのゴミ袋をもってきた大人がいることから、その危険性をわからずにバルコニーに置いたことが想像できる。標語4「考えて！そこに置いたら どうなるか」は大人に向けての注意である。標語7「登れそう そこにおいても大丈夫？」は安易にベランダに物品を置けば、子どもが登ることを大人は意識しなさいと注意している。

ポスター8「外傷」は小さな子どもに気づかず、手が扉に挟まれることを示したポスターである。東京消防庁c「STOP！子どもの「はさまれ」」では最も多いのは手動ドアであり、玄関ドアで指切断が2例紹介されている。対策として「ドアの開閉時は、子どもがどこにいるか確認する」「ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーする。」が紹介されている。標語1「気づこうよ あなた目線と 子供目線」、標語8「ちょっと待て 子どもの目線で 考えよう」は扉をあける際に、そこに子どもがいるかもしれない

ことを注意させる内容である。

ポスター9「誤飲」はおもちゃの誤飲である。消費者庁d「小さなおもちゃなどの誤飲」は「赤ちゃんの口に入る大きさ（およそ直径32mm以下）のスーパーボールなどのおもちゃやアクセサリなどの小物、ティッシュペーパー、乾燥剤などは、赤ちゃんや子どもの手の届かないところに置きましょう。」とあり、誤飲した際の対処法も紹介されている。ポスターを見ると、おもちゃを口にいれようとする瞬間に、“ちょっと待つて”という手が出ていて、その危なさが伝わってくる。標語7「なんだって 口に入れたい 気を付けて」は子どもの特徴であり、標語12「あっ食べた 飲み込む前に お片付け」はそれを防ぐための片付けの大切さを示している。

ポスター10「誤飲、やけど」の「手が届く その油断が 大事故に」も子ども誤飲の危険性、ガスによるやけどの危険性を表したポスターであり、好奇心旺盛な子どもの特徴をよくとらえ、表現している。標語8「大事故は 大人の油断が 招くもの」は確かにそうであろう。家庭内の危険防止をいかに考え抜くかによって事故を防ぐことができる。標語10「これなあに 手が届く場所に 危険あり」は子どもの気持ちを、子どもの言葉で表現していることから、危険のリアルさが伝わってくる。

ポスター11「外傷」は「歯磨き」による事故である。国民生活センター「乳幼児の歯ブラシによる事故に注意！」では乳幼児が歯磨き中に歯ブラシをくわえたまま転倒し、口腔内に歯ブラシが突き刺さる事例が紹介されている。ポスターでは、子どもは、転倒しやすいくことを考えると、このことがよく伝わってくる。標語4「くわえてる 転んだときは どうなるの？」は生じるであろう事故を考えさせる内容になっている。標語8「予測して 守ってあげよう 子どもたち」は大人の注意が子どもの事故防止になることを示している。

ポスター12「窒息」は頭からビニール袋をかぶってしまう様子が描かれている。消費者庁e「ビニール袋などによる窒息」では「ビニール袋やラップなどは子どもの手が届かないところに収納し、これらをおもちゃ代わりにして遊ばせないようにしましょう。」があり、注意を促している。標語1「何気なく おいてるものが 命取り」、標語8「ありえない そんな油断が 大事故に」は片付けの不十分さが、危険であることを表現している。

2-2 ポスターづくりで「わかったこと及び感想」

保育士や幼稚園教諭を目指す学生及び中高校の家庭科教員を目指す学生にポスターを描かせることを通して、「わかったこと及び感想」を表1に示した。

表1 ポスターづくりで「わかったこと及び感想」

	ポスターづくりで「わかったこと及び感想」
A	ポスターは人に見せるために書くので、どのように人を引きつければよいか、キャッチフレーズを考えるので、気を付けることが意識できると思います。実際に書いてみると、なかなか1番良い、インパクトを与えることができるようなものは何だろうと、迷いながら、描きました。危ないシーンを描くので、ポイントがたとえば、授業で同じ学習をしたとしたら、より意識できると思います。危険場所を1つに絞るので、さまざまな場面を学習し、その中から、ポスターの題材を選んでより深めていく方法もあると思いました。また、他のクラスメートが描いたポスターをみることで、身近に感じられるし、ポスターを共有することで、他の危険箇所も認識できると思いました。
B	ポスターを制作することで、実際にどのような場面で子どもに危険が生じるかを考えながら活動することができた。授業で活用することによって、生徒自身も危険な場面を自分の経験を基に考えることができ、教え込むだけではなく、生徒自身が考えるという授業が行え、さらに、活動が入るので、興味を持って活動を行えることができるのではないかと考えた。自分自身絵があまりうまくないので、描く場面は思いついたのだが、なかなか絵が完成しなかったのが、大変であった。
C	ベランダでの転落事故についてのポスターを作りました。作ることで、意識もしないちょっとしたことが、大事故につながるということを再認識しました。どのようなことをキャッチコピーにするか、ということも考えることで、気を付けるポイントを絞ることができました。
D	幼児の視点から危険を考えたとき、私たちが危険だと思っていないようなことも含まれるということがよく分かった。私たちが危険だと普段は思わないからこそ、一層気を付けなければならないと感じ。育児をする時、周りに幼児がいるときには特に幼児の手に届かないかなど周りの大人が配慮しなければならないと思った。また、幼児は口にものを入れる傾向があるため、火の元ややけどの原因となる者だけでなく、口に入れてはならない物についても、環境の整備が必要だと感じた。

E	子どもたちはどこかへ行くときに壁をつたったり、ドアをつかんだりと大人とは違った行動をしていて、さらに行動が遅いため、扉を開け閉めするときに注意してあげないといけないなと思いました。大人でもとびらに挟んでしまうことがあるので子どもにはさらに注意が必要なのだなと思いました。
F	予想以上に幼児の危ない行動が色々思いついた。ブランコの下に入ってブランコが戻ってきて自分の頭に当たってしまったこと、うんていの上を歩き踏み外して落ちたこと等、自分の昔の経験からも危ない行動を思い起こすことができた。中学生も柔軟に色々な場面を考えることができる活動であるように感じた幼児にとって遊びは学習指導要領にもあるように生活そのものであり、欠かせない重要なものである。そのことから、関わる時間も多いため遊具の安全な遊び方についてや、守るべきルール、安全な遊び環境についての指導は欠くことのできない大切なことであると感じた。また、幼児と触れ合う活動の前にこの活動を行うとなお効果的であるように感じた。
G	場面に応じてそれに合った絵を描くのが難しかった。どのようにしたらその行為が危険であるかというのをわかしてもらえよう工夫するのが大変だった。絵に合っていて、なおかつ印象を強く与えることのできるような標語を考えるのも難しかった。
H	ポスターを作ってみて、どんな場面が危ないのか、どんなポスターが伝わりやすいのかなど、幼児の目線になって考えることが大切だと思いました。また、インパクトのある標語も大切だと感じました。でも、絵をかくのが苦手なこともあって、ポスターを作るのは難しかったです。子どもは、視界が狭かったり背が小さい分、危険もたくさんあることがよくわかりました。
I	幼児は身の回りの何が危険かわからないため、事故は周りが防ぐことが大切だと思った。刃物を普通に使う上で起こるようなうっかり切ってしまうなどの事故は思いつくが、刃を握るといのは想像がつかなかった。不測の事態に備えるためにも、危険性のあるものは初めから遠ざけることが大切だと改めて感じた。収納場所に片付けるのは大事だがうっかり収納場所をあけて刃物を取り出してしまうこともあると思うため、鍵をかけるといった対策も必要に思う。
J	みんなが書いたポスターにあるような事故が起きないように小さな事にも気を配りやっっていくことが大切だと感じました。
K	自分でポスターを書いたことにより、どんな事故があり、どのようなことに配慮すればいいのかなど、授業の内容を振り返り、再確認することができたので、しっかりと頭に入りました。保育者とは、子どもの命を預かる責任のある仕事なので、保育者として、子どもを安全な環境で伸び伸びと遊ばせてあげることができるように、色々な事故の事例を勉強したり、子どもの視線から考えた環境を構成するなどの配慮を、一番に考えて仕事をしたいと思いました。
L	ポスターを書くことで、自分たちでああではない、こうではないと普段の状況の中に子供がいたら、と想像したり、保育者がふとした時に目を離してしまう瞬間はどこかと想像したり、いろいろ考えることができ、とてもいい機会になったと思いました。
M	絵を描いてポスターを作る作業とてもたのしかったです。保育者になったら今日行ったことを生かし、してはいけないことをポスターを見て一目で分かるように子ども達に分かりやすく貼りたいです。
N	ポスターを書くことで気をつけなければいけないことを再認識出来たので良かったです。

Aでは「ポスターは人に見せるために書くので、どのように人を引きつければよいか、キャッチフレーズを考えるので、気を付けることが意識できると思います」とあり、危険な箇所を気づいてもらう工夫をポスターに示すことで自分自身にも危険の関心が高まるとしている。Bでは学生自身が「実際にどのような場面で子どもに危険が生じるかを考えながら活動することができた。」とあり、具体的な事故をイメージしながら、どうしたら安全になるかを考えている。また、「教え込むだけでなく、生徒自身が考えるという授業が行え、さらに、活動が入るので、興味を持って活動を行えることができるのではないかとこの活動を教師の立場から述べ、肯定的に評価している。Cでは「作ることで、意識もしないちょっとしたことが、重大事故につながるということを再認識しました。」のように、子どもの事故に深い理解が得られたことを示すとともに「どのようなことをキャッチコピーにするか、ということを考えることでも、気を付けるポイントを絞ることができました」のような効果があることを述べている。Dでは「幼児の視点から危険を考えたとき、私たちが危険だと思っていないようなことも含まれるということがよく分かった。」とあり、ポスターを描くことによって、幼児の視点から危険さの理解を深めている。Eではポスター化することで「ドアをつかんだりと大人とは違った行動をしていて、さらに行動が遅いため、扉を開け閉めするときに注意して」のように幼児の行動の特徴を認識した上でポスターを描いている。Fでは「自分の昔の経験からも危ない行動を思い起こすことができた。中学生も柔軟に色々な場面を考えることができる活動であるように感じた。」のように生徒に自分が経験した事故を思い出させる効果がある述べている。そうなれば、中学生の事故防止に向けて意識は高まる。Gではポスターを描く難しさを述べている。実際に中学生でもこのようなことは考えら

れるので、絵の上手下手は関係なく、“危険回避が伝わることを目標にポスター化しよう”などの助言が必要である。Hではポスター作成の大事な点「幼児の目線になって考えることが大切だと思いました。」を述べ、さらに「子どもは、視界が狭かったり背が小さい分、危険もたくさんあることがよくわかりました。」など子ども理解が深まっている。Iでは「収納場所に片付けるのは大事だがうっかり収納場所をあけて刃物を取り出してしまうこともあると思うため、鍵をかけるといった対策も必要に思う。」のように、安全対策を提案している。Jでは自分以外のポスターを見て、いろいろな事故があることを知り、気配りをしたいと述べている。Kではポスターを描くことで事故予防にどのようなことを配慮すればよいかわかったことを述べている。Lでは子どものいろいろな場面や保育者が目を離したことを想像しながら描くことができたことと述べ、このことによって、事故につながる予期しない子どもの行動や、保育者の不注意を考えることができていく。Mではポスターを園に貼ることで、子どもたちに事故防止意識を高めたいと述べている。Nでは配慮すべき箇所の再確認にポスターづくりは役だったことを述べている。

全体的に、ポスターづくりを通して、子どもの特徴と事故を関連づけて考え、子どもの事故の理解を深めることができた。

2-3 標語づくりで「わかったこと及び感想」

ここでは各学生が表1の全ポスターを見て、標語づくりをすることを通して、子どもの事故の多様性を理解できるようにするために行った。結果を表2に示した。

表2 標語づくりで「わかったこと及び感想」

No	標語づくりで「わかったこと及び感想」
A	それぞれのポスターに合った標語を考えるのが非常に難しかった。また、学習指導要領に書かれている目標を達成することのできるような標語を考えなければならないというのがまた難しく感じた。普段何気なく生活している中では気づかないようなささいなことにも注意していかねば幼児にとっては大事故につながりかねないということをこれらの標語で認識させることができるのではないかと考えた。そして、幼児の体と動きの特徴を理解した上でポスターの標語づくりをさせることで実感をもたせることができるのではないかと感じた。
B	子どもの身体的特徴や、危険な行動やものの意味がわからないために事故が起こると考えたため、標語もそれを踏まえて私たちが幼児を守らなければならないことがわかるように意識した。標語は、いかに短い文章と絵でどれだけ相手に印象を残せるか考えるため、自然と緊張感のある文になったと感じる。風呂や誤飲といった事故の可能性として真っ先に考えられそうなものから、手が届く範囲にあるもの全てが危険であるというもので普段意識していないものが例に数多くあった。それら1つ1つに緊迫感をもって意識するのに標語づくりは効果的だと考える。自分が描いたものは1つであっても、全員のものを見ることで危機意識は高まると感じる。
C	ポスター作りを行うことで、なかなか普段気づくことのできない、子どもの危険について気づくことができた。将来家庭を持っていくことになる生徒にとって、このことに気づくことができるというのは、大変重要なことではないかと考える。将来、健康で、安全に子供を含めた家庭を作っていく中で、このような活動は、教えられるだけでなく、生徒自ら主体的に学べ、気づくことができるため、興味を持つことができ、大変有効なものではないかと考えた。
D	言葉でいかに端的に伝えられるか、リズムよくスツと心に入ってくるか、グサツと心に響くかということを考えて作りました。ポスターの標語を考える中で、生活の中にひそんでいる意外と気づかない危険や、忘れがちになっている危険にも気がつくことができました。ポスターを作る、また標語を作るという目的があって集中して頭をフル回転させながら考えるのですが、その目的にプラスして、幼児の生活の中にたくさん危険が潜んでいるということを自然と学べていると思います。「家庭内にこんな事故があつて気をつけないといけないよ」と教えることも必要かもしれませんが、人に伝えるときには自分が一番知っていないといけないということを利用できる方法かなと考えました。個人で作って最後に発表会をするなど、作って終わりではなく、それを発信する機会を設けることも大切だと思いました。ポスター作りは思った以上に難しかったです。

E	<p>ポスターの標語をつくることで、次のようなことが分かりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標語を考えることで、どこが危険なのかが生徒に把握しやすくなったと思いました。 ・五七五で標語を考えるという活動を取り入れてあることで、生徒自身が取り組みやすく、楽しく学ぶことができると思いました。 ・現在の学習指導要領では、生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、言語活動を充実することとしています。標語を作るという活動を取り入れることは、言語活動を充実させることにあたると感じました。 ・ただ作るのではなく、作成後、短冊に書いたり、ポスターと合わせて、教室に展示したり、授業内で紹介する場があることで、自分が担当した標語の内容以外にも知ることができ、また、五七五調なので、短く、その場で「こんな標語もあるよね」と考えることもできると感じました。
F	<p>標語づくりを通して、短文でリズムよく、わかりやすく言葉にする力が付くと思いました。また、キャッチコピーにすることで頭の中に何が大切なのか伝わりやすくなるとうなりました。ひとりひとり、同じ場面でも着目する点が違うと思うので、意見交換することでいろんな角度から子供の危険について考えたり、気づいたりできると感じました。</p>
G	<p>考えてみると子供たちの危険を呼びかける標語は似た様なものが多く、しかし違うのはインパクトが違うなと思いました。文章よりも5・7・5のほうがなんか耳に残って、気を付けやすくなるなと思いました。</p>
H	<p>標語づくりは大学生の私でも、考える際にすごく頭を使ったため、生徒たちにこの取り組みをさせることで、このポスターの何が危険なのか、ポイントはどこにあるのか等、様々なことを考え、自分もしないようにしようなどと意識を高めることができると考えられた。今回様々な分野の模擬授業を見てきたが、家族生活のA分野は特に授業づくりが難しいと感じた。ただ単に授業でこういうことが危ないですよ、というだけでなく、こういった活動を授業に組み込むことで生徒は退屈しないし、記憶にも残りやすく、いい授業づくりができると考えた。</p>
I	<p>今回、ポスターの標語づくりを通して、幼児の危険な場面を見ることができてよかった。幼児にとっては、危険なことが日常生活の多くの場面にあることがわかった。自分にとっては、ちょっとした不注意が、幼児の命を脅かすことになることがわかり、これから気を付けていこうと思った。ポスターであると、危険な場面が具体的に想定することができて良かった。また、ポスターの標語を作ることによって、その危険な場面を想像することができて良かった。幼児が、どう動くか危険であるのだろうか、どうすれば、安全になるのかを考えさせられた。中学生にこの教材を利用すると、このように、危険な場面が考えさせることができると思う。周りに子どもがいる中学生にとっては、これから、気を付けようかと思う。また、周りに子どもがいない人でも、将来気を付けようかと思うので、非常に有効的な教材であると思う。</p>
J	<p>子どもの危険は、日常生活のあらゆる場面に潜んでいることがよく分かりました。教員として、生徒に幼児とかかわる（生活する際には）自分たち以上にさまざまなことに気をつけなければならないこと、大人が環境の整備など子どもの安全を守るようにすることが必要であることを学ばせる必要があると思いました。このように、様々なポスターを作ることで、子どもの周りにはあらゆる危険があることに気付く（大人の側が気を付けていなければならないことにも気付く）ことができ、大変効果的な教材だと思いました。</p>

Aでは標語を考えることは難しいとしながらも、中学校でこのような授業をすれば「普段なにげなく生活している中で気づかないような小さなことにも注意していかなければ、大事故につながりかねないということをこれらの標語で認識させることができる」と考えている。Bでは「子どもの身体的特徴や、危険な行動やものの意味がわからないために事故が起こると考えたため、標語もそれを踏まえて私たちが幼児を守らなければならないことがわかるように意識した。・・・自分が描いたものは1つであっても、全員のものを見ることで危機意識は高まると感じる。」のように、ポスターの標語づけで危機意識を高めることができている。Cでは「子どもの危険について気づくことができた。将来家庭を持っていくことになる生徒にとって、このことに気づくことができるというのは、大変重要なことではないかと考える。」のように、子どもの事故の事例を把握することの重要性を述べているとともに、「このような活動は、教えられるだけでなく、生徒自ら主体的に学べ、気づくことができるため、興味を持つことができ、大変有効なのではないかと考えた」のようにこの教材の有用性を述べている。Dでは「ポスターを作る、また標語を作るという目的があって集中して頭をフル回転させながら考えるのですが、その目的にプラスして、幼児の生活の中にたくさん危険が潜んでいるということを知ると自然と学べていると思います。」というように効果的な学習であることを述べている。Eでは「五七五で標語を考えるという活動を取り入れてあることで、生徒自身が取り組みやすく、楽しく学ぶことができると思いました。」とあり、この学習には楽しさがあることを述べている。Fでは「キャッチコピーにすることで頭の中に何が大切なのか伝わりやすくなるとうなりました。ひとりひとり、同じ場面でも着目する点が違うと思うので、意見交換することでいろんな角度から子供の危険について考えたり、気づいたりできると感じました。」のように、標語づくりをすること、また意見交換によって子ども

の事故の内容を多面的に知ることができるのではないかと、発展性を述べている。Gでは「文章よりも5・7・5のほうがなんか耳に残って、気を付けやすくなる」のように5・7・5調の効果を述べている。Hでは「標語づくりは大学生の私でも、考える際にすごく頭を使ったため、生徒たちにこの取り組みをさせることで、このポスターの何が危険なのか、ポイントはどこにあるのかなど、様々なことを考え、自分もしないようにしようなどと意識を高めることができると考えられた。・・・ただ単に授業でこういうことが危ないですよ、というだけでなく、こういった活動を授業に組み込むことで生徒は退屈しないし、記憶にも残りやすく、いい授業づくりができると考えた。」のように授業を中学校で実践する場合の利点を述べている。Iではこの教材によって「ちょっとした不注意が、幼児の命を脅かすことになることがわかり、これから気を付けていこうと思った」のように、子どもの事故の重大さを理解している。Jでは「教員として、生徒に・・・環境の整備など子どもの安全を守るようにすることが必要であることを学ばせる必要があると思いました。」のように、教師として子どもの事故防止を生徒に学ばせる必要性を感じ、述べている。

以上のように、学生はポスターの標語づくりを通して、多種多様な事故事例を理解することができ、中学校で同様のことを授業実践する場合の利点も述べていることから、この教材の有用性が確かめられた。

おわりに

保育士や幼稚園教諭を養成する大学及び家庭科の教員を養成する大学において、子どもの事故防止の知識、理解を広げ、深めることは重要である。「実際にどのような場面で子どもに危険が生じるかを考えながら活動することができた。」とあるように、ポスターづくりはそれを行う過程で、種々考えられる具体的な事故をイメージしながら、わかりやすくアピールしなければならないことが、学生の子どもの事故防止に対する深い理解になった。また、多種のポスターに標語づけをすることで、事故事例の多様さを知ることができ、理解の幅を広げることができるとともに、学習指導要領の言語活動の充実、思考を高める活動にもなった。しかも、学生はこの活動を飽きることなく、主体的な学習であると評価をしている。

「健やか親子21」は子どもの事故防止に向けて、家庭と学校、地域が一体となって、対策を行う必要があるとしている。今回の結果を参考に、今後、それに向けた授業を実践をしていきたい。

参考文献

NHK (2013) : 「保育所事故を繰り返さないために」時事公論

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/148462.html>

読売新聞 (2001) : 「2001.01.14 相模原で昨年、ブランコから小4 転落死」

読売新聞 (2013) : 「2013.02.21 男児プール溺死 前園長ら書類送検」

国民生活センター (1999) : 「家庭内事故—その実態を探る」

http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-19990604_3.pdf

京都府HP : 民生活部消費生活安全センター「公園などの遊具での事故を予防する」

<http://www.pref.kyoto.jp/shohise/1294279971813.html>

厚生労働省 : 「健やか親子21」

http://www1.mhlw.go.jp/topics/sukoyaka/tp1117-1_c_18.html

東京都福祉保健局 : 「乳幼児の事故防止教育ハンドブック」

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/shussan/nyuyoji/jiko_kyouiku.html

文部科学省 (2008) : 中学校学習指導要領解説技術・家庭編

文部科学省 (2010) : 高等学校学習指導要領解説家庭編

国立保健医療科学院 : 「子どもに安全をプレゼント 事故防止支援サイト」

http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/general/infomation/jiko0_1.html

消費者庁 a : 「カミソリなどの刃物による切傷」

http://www.caa.go.jp/kodomo/onepoint/newdetailadvice_9_12_3.php

館林市HP : 「子どもの危険！子どもの目線で事故予防」

<http://www.city.tatebayashi.gunma.jp/docs/2013092400021/>

東京消防庁 a : 「子どもの風呂場での溺水事故に気を付けて！」
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-rinkou/ofuro.html>

ホンダHP : 「子どもの危険予測」
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/child/child01.html>

消費者庁 b : 「ポットや炊飯器によるやけど」
http://www.caa.go.jp/kodomo/onepoint/new_5-4.php

東京消防庁 b : 「遊具にかかわる事故」
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/topics/201203/yugu.html>

消費者庁 c : 「窓、バルコニーからの転落」
http://www.caa.go.jp/kodomo/onepoint/new_3-6.php

東京消防庁 c : 「STOP! 子どもの「はさまれ」」
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/topics/stop/07.pdf>

消費者庁 d : 「小さなおもちゃなどの誤飲」
http://www.caa.go.jp/kodomo/onepoint/new_1-7.php

国民生活センター : 「乳幼児の歯ブラシによる事故に注意！」
http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20130328_5.html

消費者庁 e : 「ビニール袋などによる窒息」
http://www.caa.go.jp/kodomo/onepoint/newdetailadvice_1_2sai_4.php